

## 1 研究テーマ

意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成  
～書くことにつながる音声活動の工夫を通して～

## 2 研究テーマ設定理由

本年度は前年度からのテーマを引き継ぎ、「意欲的に英語学習に取り組む児童・生徒の育成～書くことにつながる音声活動の工夫を通して～」を研究主題とし、小中連携という視点も踏まえ、小学校の先生方と中学校の先生方とで同じテーマで研究を進めていく。そのなかで以下の2点のことについて深めていく。

1点目として、児童生徒の意欲を高めるために教科書題材（学習資料）をいかに扱うかということに焦点をあて、日常の主たる教材である教科書の多様な活用法や工夫を音声活動という視点から考え、内容理解から表現へとつなげていくような授業づくりに取り組んでいく。中学校では、表現力（書くこと）へとつながる音読の工夫や音声を中心とした教科書題材導入の工夫を考証していく。小学校では、表現する意欲を育むために題材に関する small talk や oral introduction でのインプットの工夫・充実を図っていく。

2点目は、小中連携の視点から、小中の相互乗り入れの部分についての共通理解や教材の共有などに取り組んでいく。本地区では、英語科として低学年から取り組んでいる地区があったり、英語専科の配置も多くあったり、すでに「読むこと」「書くこと」を含めた4技能の学習活動を行っている小学校が多くあり、中学校でもインタビュー活動やペアワークなどの活動に積極的に取り組む意欲的な姿が見受けられる。そこで、小中共通で扱う文構造や使用場面（自己・他己紹介や道案内など）について実践を持ち寄り、小中の連携をより深めていく。使用場面を共有することで、小学校で培った外国語運用能力に中学校での知識が加わり、より場面や機能を意識した意欲的な言語の使用が期待できる。

今年度も、中学校では書くことへのハードルを低くできるように、小学校では書くことへの期待を高められるような音声活動を工夫していき、そして、小中連携を深め、より意欲的に英語学習にとりくむ児童・生徒の育成を目指していく。英語学習において、小学校と中学校の連携を軸に、児童・生徒が「楽しい」と感じ、「わかる」と思う授業を創造することで、学習者がより意欲的に英語学習に取り組むだろうと考え、本主題を設定した。

## 3 研究の経過

月日	内容	司会・記録
5月 8日	組織決定・今年度の研究の方向性・統一授業研について	塩山中
5月22日	研究の方向性について・研究方法について	勝沼中・大和中
6月12日	実践報告・研究協議・統一授業研①について	山梨南中・加納岩小
8月16日	夏季学習会・統一授業研①指導案検討（模擬授業）	松里中・塩山北中
8月28日	統一授業研①（勝沼中・堀内先生）	笛川中・笛川小
9月18日	実践報告・研究協議（ブロックごと）	加納岩小
11月27日	実践報告・研究協議（ブロックごと）	日下部小・八幡小
1月15日	統一授業研②指導案検討（模擬授業）（全体）	松里小・塩山南小
2月 5日	統一授業研②（塩山南小・高野先生）	塩山北小
2月12日	今年度の研究の成果と課題・来年度の研究の方向性について	山梨北中

## 第2 学年英語科指導案

指導者： 堀内 翔子

ALT： サラ・ローズ

1. 単元名                   NEW HORIZON English Course 2 (東京書籍) Unit 3 Career Day

2. 単元について

(1) 教材観

本単元では、レストランでの職場体験に際しての注意の読み取りから、体験の感想についての対話、新聞社での体験レポートの読み取りなどが扱われる。職場体験は本校では11月に実施する予定で、総合的な学習の時間等を利用して職業調べをしている。漠然とした夢から、将来就く職業について具体的に考え始める時期でもある。本単元の登場人物が体験の感想を述べたり、レポートにまとめたりしているものを読んで内容を理解させ、生徒にも考える契機としたい。

(2) 指導観

不定詞の3つの用法を学習する。副詞的用法「～するために」、自分の好きなことや希望を伝える名詞的用法「～すること」、情報をつけ足す形容詞的用法「～するための」の3つである。これらを用いることで、自分の思いや情報をより端的に具体的に伝えることができる。授業では基本文の意味を理解させたうえで本文中の不定詞に気づかせ、文脈の中で意味を理解させたい。

(3) 単元の目標

- ①何かをする目的を述べるができる。 / 夢や希望などについて述べるができる。 / 情報をつけ足して説明することができる。
- ②自分の行きたい場所やしたいことなどについて、たずねたり伝えたりすることができる。

(4) 単元の評価規準

ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ. 外国語表現の能力	ウ. 外国語理解の能力	エ. 言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 友達の将来の夢について関心を持ち、積極的に対話をしている。</li> <li>② 相手が行きたい国について、積極的に質問している。</li> <li>③ 自分の目標とする人にインタビューする内容を積極的に考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 何かをする目的を述べるができる。</li> <li>② 将来つきたい職業とそれになるために自分に必要なことについて述べるができる。</li> <li>③ 行きたい国やそこでしたいことをインタビューし情報をまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 注意書きの内容を読み取ったり、行動の目的を聞き取ったりすることができる。</li> <li>② 職業体験のレポートを読み、内容を理解することができる。</li> <li>③ 仕事についてのインタビューを読んで、概要を読み取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 不定詞の目的を表す副詞的用法の形・意味・用法に関する知識を身につけている。</li> <li>② 不定詞の名詞的用法の形・意味・用法に関する知識を身につけている。</li> <li>③ 不定詞の形容詞的用法の形・意味・用法に関する知識を身につけている。</li> </ul>

### 3. 単元の指導計画

時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価基準
1	<p>○ある行動について、その目的を述べることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の目標を確認する。</li> <li>・本文の注意書きの文（不定詞（副詞的用法））の内容を読み取る。</li> <li>・Part 1 の内容についてあらすじをつかむ。</li> <li>・Part 1 の新出語句を知る。</li> </ul>	ウ-①, エ-①
2	<p>○将来つきたい職業について述べるができる。クラスメイトのつきたい職業を聞き取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不定詞（名詞的用法）の内容を読み取る。</li> <li>・Part 2 の内容についてあらすじをつかむ。</li> <li>・Part 2 の新出語句を知る。</li> <li>・自分のつきたい職業について口頭練習し、ペアの相手に伝える。またペアの職業について聞き取る。</li> </ul>	エ-② ア-①, イ-①
3	<p>○アレックスの職業体験のレポートを読んで、不定詞の形容詞的用法の意味をおおまかに理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文を読み不定詞の形容詞的用法の意味を確認する。</li> <li>・形容詞的用法を理解するための活動をして、何度も口頭で練習する。</li> </ul>	エ-③
4	<p>○アレックスの職業体験のレポートを読んで、不定詞の形容詞的用法の意味を理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Part 3 の新出語句を知る。</li> <li>・本文の音読をする。</li> <li>・本文についての Q&amp;A を解く</li> </ul>	ウ-②
5 本時	<p>○将来の自分に必要なことを考え、クラスメイトに伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Part 4 の内容についてあらすじをつかむ。</li> <li>・Part 4 の新出語句を知る。</li> <li>・宮間選手のメッセージを読み取り、それを参考にして将来の自分に必要なことを考えペア・グループで発表しあう。</li> </ul>	ウ-③ イ-②
6	<p>○光太の職場体験のレポートを読んで、自分の目標とする人にインタビューをするならだれにするか、何を質問するか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習をする。（単語・本文）</li> <li>・本文についての Q&amp;A を解く。</li> <li>・自分の目標とする人にインタビューをするならだれにするか、何を質問するか考える。</li> </ul>	ウ-① ア-③
7	<p>○仕事紹介のインタビューを聞いて、その内容を聞き取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来就きたい職業を発表させる。 (第2時で考えた文)</li> </ul>	

	・インタビューを聞き、教科書の各設問に答える。	エ-①, ②, ③
8	○行きたい国やそこでしたいことについてインタビューをし、聞いた情報をまとめることができる。 ・自分の行きたい国とそこで何をしたいか考える。 ・行きたい国と何をするかをペアの相手にインタビューし、聞き取ったことをまとめる。	ア-②, イ-③

#### 4. 生徒の実態

##### (1) 生活面について

本学級は男子 15 名女子 11 名の計 26 名のクラスである。学級の雰囲気は明るく、リーダーを中心に自主的に活動しようとする姿がよく見える。英語の授業ではグループワークなどを積極的に行い、協力して取り組むことができる。その一方で、個別の発言になると消極的な生徒が多く、挙手をするのは特定の生徒にしぼられてしまう。どの生徒も自分の答えや考えを積極的に言えるような雰囲気づくりをしていくのが今後の課題である。

##### (2) 学習面について

「書くこと」については、苦手な生徒が多くいる。具体的な改善策として定期試験や単元末試験で英文作成の問題を入れ、ALT とともに添削を行い、授業で振り返りを行っている。添削された英文は自分で確認し、さらにもう一度自分で書いて完全版をつくるように指導をしている。しかし昨年度からの単語が定着していない生徒が多く、単語が頭に浮かんでも正確に書けないという声を授業で多く聞く。そのため単語の導入を工夫したり、こまめに単語テストをしたりなどしている。今後は授業の本文で出てきた際に意味を文脈の中で理解させ、家庭でつづりを練習するという流れを常に作っていきたいと考える。

また英語を聞いたり、話したりする活動に対しては多くの生徒が積極的な姿勢でできている。英語が苦手な生徒は学級内に少なくはないが、ポイントカード（発言や自主学習を行った際にポイントをつける）の取り組みを行い、授業にやる気を持たせる工夫をしている。また授業の振り返りシートの中や授業後に質問をする生徒も少しずつではあるが増えており、わからないことをそのままにしない学習の姿勢が育まれつつある。

#### 5. 教協研究との関わり

今年度は「教科書題材をいかに扱うか」ということに焦点を当て、日常の主たる教材である教科書の多様な活用方法や工夫を音声活動という視点から考え、内容理解から表現へとつなげていくような授業づくりを考えている。具体的に以下の 2 点に力を入れて指導する。1 点目は教科書の内容理解のために生徒に教科書題材に興味を持たせる Oral Introduction である。導入段階では単元で指導する文法項目に目を向けがちであるが、題材に目を向け、題材から自分の考えを述べる表現活動へと円滑に移行できるようにこの活動を行いたい。Oral Introduction であらずじをつかみ、その後生徒が自分の力で本文を読むことでより内容理解が進むと考える。その際に JTE と ALT のモデルを視聴させるだけではなく、生徒との Interaction を交えて進めることに注意して指導したい。

2 点目は表現活動を、研究テーマである「書くことにつながる音声活動」をふまえ、「聞く→

自分で考える→話す→書く」の手順で行うことである。本時では、「書くこと」自体は宿題となる。研究会では、頭の中で文をつくって伝えることは生徒にとってハードルが高いという意見が多く聞かれた。そのためこの活動を成しえるために効果的なメモを研究会で考案した。

(Worksheet Step 2) また「書かずに話す」という活動は、次期学習指導要領で求められている「即興性」を養うという観点から、生徒に有効な手立てになるという意見もあった。そのため活動自体の変更は行わず、教師が生徒に見せるモデル部分を生徒が自分の考えを組み立てやすいように工夫した。上記2点に注力して授業を実践したい。

## 6. 本時の学習

- (1) 日時 2019年8月28日(水) 5校時(13:30~14:20)
- (2) 場所 甲州市立勝沼中学校 2年B組教室
- (3) ねらい 将来の自分に必要なことを考え、クラスメイトに伝えることができる。
- (4) 展開

時間	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	評価基準
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気にあいさつをする。</li> <li>・隣の席の生徒に体調をたずねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気にあいさつする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雰囲気づくりを行う。</li> </ul>	
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Oral Introductionを行う。</li> <li>・本文をALTの後について読ませる。</li> <li>・目標の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のOral Introductionを聞いて概要をつかむ。</li> <li>・本文をALTの後について音読する。</li> </ul>		
	目標：将来の自分に必要なことを考え、クラスメイトに伝えることができる。			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Oral Introductionで確認した単語をFlash cardで練習する。</li> <li>・Word definition gameをする。</li> </ul> お題 一人目 stadium 二人目 heart	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Flash cardを見ながら発音する。</li> </ul>	Word definition gameはペアで行う。ペアの一人は後ろを向き、もう一人がお題を見て、ペアの相手に英語で伝える。(NGwordは言わないよう	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>再度目標を確認する。</li> <li>本文を再度音読する。</li> <li>生徒に内容を読み取るための Questions を与え本文に線を引かせる。</li> </ul> <p>・ Questions の答え合わせをする。(教師が答えを言う)</p> <p>・ Worksheet の Step 1 を考えさせる。 (個人→ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体で答え合わせをする</li> <li>光太の感想部分の日本語も確認する。</li> </ul> <p>◎生徒に将来仕事をするうえで自分に必要なことを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ALT と JTE のモデルを視聴させる。</li> <li>自分に必要なことを考えさせる。</li> </ul> <p>・ ペアで言い合わせる。活動後 Feedback を行う。 (よかった表現・改善すべきところ) その後ペアを変えて再度言い合わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時間があればさらにペアを変えて 3 回目をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>再度目標を聞く。</li> <li>本文を再度音読</li> <li>教師の Questions の答えの部分を探す。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>本文に二重線</li> <li>本文に波線</li> </ol> <p>・ ALT と JTE のモデルを視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分に必要なことを考える。</li> </ul> <p>(Worksheet Step 2 のメモ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えた内容を言い合う。まずは隣同士のペアで言い合う。その後 Feedback を聞き、ペアを変えて再度言い合う。</li> </ul>	<p>にする) 制限時間以内に ペアの相手がわか かったら 1 ポイ ント</p> <p>ワークシート (P9)</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>1.宮間選手の言いたかつたことはどこに書いてあるでしょうか。 2.光太は宮間選手の言葉を聞いてどのような感想を持ったでしょうか。</p> </div>	<p>ウ-③</p> <p>イ-②</p>
--	--	--	---	-----------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間があれば数名の生徒に考えた文を発表させる。</li> <li>・宿題の指示を出す。(宿題用ワークシート配布)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間があればさらにペアを変えて3回目を行う。</li> <li>・時間があれば発表する。</li> <li>・宿題の内容を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回プリントを提出</li> <li>書かれた文で評価する。</li> </ul>	
終末 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を振り返り、様子を話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の授業の振り返りを聞く。</li> <li>・振り返りシートを記入する。</li> </ul>		

## 7. 評価について

下記のルーブリックは、本時の授業内で伝えた「将来仕事をするうえで自分に必要なこと」を課題として書いてくる英作文においてどの程度達成できているのかを確認するものである。

評価	字数	不定詞の文	ミス
A	25語以上	4文以上	なし
B	19語以上	3文	1～3個
C	18語以下	2～0文	4個以上

## 8. 授業者の振り返り

今回の研究授業・研究会を通して、言語学習の流れを学ぶことができた。特に、当日講師として来ていただいたの杉田由仁先生に教えていただいた input-intake-output の流れの授業の組み立て方は今後指導を考える際に意識していきたい。本時の授業を振り返ると Oral Introduction での input は量・質ともに少なかった。授業全体で intake の活動をする時間が少なかった。このような指導の中で生徒に output を要求するのは酷なことだった。先生方のアンケートの中からも、本時の中では伝えあう活動の中での Feedback をよりていねいに行うことが intake の働きも生んだように感じる。

研究授業をすることで自分の指導力の無さを痛感したが、それを補うように部会の先生方からたくさんのアイデアや指摘をいただき指導案をつくり授業実践をすることができた。先生方に感謝したい。アンケートの中で先生方に挙げていただいた課題「ICTを授業に取り入れる」「All in English を実践する」これらはこれからの時代の指導に求められているものであり、私自身も学びながら実践をしていきたい。

## 9. 研究授業の振り返り学習会より

- |   |
|---|
| <p>①研究テーマ「意欲的に学習する児童・生徒の育成～書くことにつなげる音声指導の工夫を通して～」に関わって</p> <p>○「書くこと」への意欲につなげるようにメモだけで話させようという意図は達成できていた。</p> |
|---|

○Oral introduction を活用し、All English で導入ができたことにより聞くことの練習ができたとともに、本時のゴールの活動に向けて必要な表現を学ぶことができた。また、「将来の自分に必要なことスピーチ」のモデルを JTE と ALT で示したことで生徒に具体的なゴールの姿を見せられたことは、その後の書く活動に有効であった。

○書くことにつなげる音声活動として、本時の最後、将来なりたい職業に就くために必要なことを伝え合う活動を行う際、「I need～」を使えばよいと子どもたちが推測できるような板書・掲示の工夫がされていた。子どもたちが会話の中で、自然に「I need～」と話すことができていたので、書く活動にもそれが生きてくると思う。

▲ゴールの活動が話すこと (Output) であったが、そこにむけての Input や Intake が不十分であったと感じた。音声活動をスモールステップで積み上げていくことが書くことへとつながっていくと思う。

▲できれば、本時の授業と宿題だけでなく、まとめりとして将来について書かせたい。(全体計画として) (Presentation1 につなげる, など)

#### ②授業 (展開, 教材・教具など) に関わって

○Oral introduction で ALT を上手に活用されておられた点が特に良かった。ALT との自然な会話の中で、新出単語を用い、生徒に投げかけて意味の理解をさせていた。会話のキーワードになる単語を視覚的に見せながら話すなど、小学校の oral introduction でも取り入れることができる。

○Word definition game は、即興性を高めるいい活動だったと思う。今回のメインの活動とも、即興性という面で活動内容がリンクしていた。

▲ICT をどの場面で使用することが有効なのか考え、もっとしぼった方がよい。聞くことだけに集中させたい場面。話すことに集中させたい場面。黒板に残した方がよい情報などもある。

▲普段の授業から ICT を使い、生徒にとって ICT が特別と感じさせないようにした方がよい。

▲板書で残しておきたい部分との住み分けが必要。

#### ③ 3 指導者の活動 (指示, 発問) に関わって

○All English で進めたことは素晴らしい。今後も続けていくことで生徒のリスニング力や思考力・表現力の高まりが期待できる。

▲生徒への支援や見取りがどれだけできていたのか気になる。話すことや書くことができていないのに次の活動へ移ってしまう場面が見られた。教室の中を歩き回り生徒の様子を常に観察するようにした方がよい。

▲「将来の自分に必要なこと」を伝える場面において、1 回目後の “Feedback” が足りなかったような気がする。生徒から「良かった表現」を紹介させたり、「言えなかった表現」を出させて生徒たちへ考えさせたりすることで、2 回目の活動がより良いものになると思う。

▲日本語で考えていた生徒が、家庭学習でどのように英文を考えてきたか知りたい。

#### ④ 生徒の様子

○はじめは緊張のせいか反応が薄かったが、“Word definition game” のあたりから笑顔や話す姿が見られるようになった。“Greeting” や “Oral Introduction” で緊張をほぐすようなことができれば、より良い授業が展開できるようになると思う。

○大変意欲的に授業に参加し、英語を話そうとしていることが伝わった。

○堀内先生と生徒の関係の良さが伝わる授業だった。



## About Your Future Job

～将来の自分に必要なことを考えよう～

Class ( ) No ( ) Name ( )

Step1 宮崎選手の言いたいことを確認しよう



You need to get along with your teammates.  
 あなたの( )と( )すること  
 You need to break the language barrier.  
 言葉の( )を( )こと  
 Get a lot of experience.  
 たくさんの( )を積むこと  
**It's all about your heart.**  
 それはあなたの( )



To play abroad is not easy, but I really want to try.  
 (海外で競技をすることは簡単なことではないけれど、僕は挑戦してみたい。)

Step2 自分の将来就きたい職業に必要なことについて伝えよう！

You

Memo こんなことを言おうかな

将来就きたい職業 ( )

必要なこと・・・ ( )

必要なこと・・・ ( )

**It's all about my heart.**

## Homework Sheet

### About Your Future Job

～将来の自分に必要なことを考えよう～

Class ( ) No ( ) Name ( )

Let's Try! 授業で言い合ったことを文にしよう！(わからない表現は自分で調べよう！)

You

.....

.....

.....

.....

.....

.....

<Example>

I want to be a cafe staff.

I need to study about coffee.

I need to visit many cafes.

I want to work at Star bucks.

It's all about my heart.

評価	字数	不定詞の文	ミス
A	25語以上	4文以上	なし
B	19語以上	3文	1～3個
C	18語以下	2～0文	4個以上

評価 A

I want to be a teacher.

I need to study various subjects.

I need to be strong.

I need to get my license.

I want to work in elementary school.

It's all about my heart.

<生徒の実態> 女子生徒 A

- ・話すことが苦手。自分の思いを言葉にするのに抵抗がある。
- ・英語の成績は中ほど。

<授業後の変容>

- ・いつもは静かだがペア活動で長く話している様子があった。
- ・教師の想定していた4文より多く5文書くことができた。
- ・彼女が I want to be strong. と将来に対し積極的に考え、必要なことを自分事としてかけた点が良かった。

評価 B

I want to be a movie director.

I need to study about movies.

I need to visit many movie theaters.

I want to work <sup>as</sup> at a movie <sup>sets</sup> studio.

It's all about my heart.

<生徒の実態> 女子生徒 B

- ・字を書くのは苦手。
- ・話すことは好きで伝えたいことはたくさんあるが、言葉を上手くまとめられない。・語彙力がない。

<授業後の変容>

- ・教師側が提示した英文を利用し、彼女なりの文をつくることができた。
- ・3文目は I need to visit many movie theater. と書きたかったようだが ALT は movie set と解釈して添削している。口頭で話した内容を文章にする際、正しく単語を書かないとこのような齟齬がうまれてしまうことを指導したい。一方で生徒にとっては movie set という新たな語を知ることができた機会にもなった。

評価 C

I want to be a vet.

I need to study about animals.

<生徒の実態> 男子生徒 C

- ・学力は低い。家庭学習が習慣になっていない。
- ・音と文字を結びつけて理解できない。

<授業後の変容>

- ・2文しか書くことができなかった。授業内で将来なりたいもの（1文目）は言うことができたがその先は何も言えなかった。そのため話したことを文字にしなさいと言われてもできなかったと予想される。

<この生徒への今後の支援>

- ・授業内での目標をどの生徒が聞いても何をすればいいのかはっきりとわかるように示す。
- ・机間指導の中で発話ができているか確認する。授業内での **Feedback** を行う。
- ・文字、文の書き方を基本的なところから繰り返し指導する。

評価 A+

I want to be a youtuber.

I need to watch youtube.

I need to learn to edit.

I want a lot of money.

It's all about my heart

<生徒の実態> 男子生徒 D

- ・学力は高いが、お調子者で注目を浴びたい性質がある。

<授業後の変容>

- ・授業時 I want to be a NEET.と発言したが、課題では You Tuber に直していた。評価をされるものであるし、授業後にクラスメイトから「まじめにやったほうがいい」と言われ、自宅で考え直した。
- ・I need to learn to edit.と不定詞を重ねて文を書いており、不定詞の使い方をよくわかっている。